
魔法少女リリカルなのは～拳物語～

チョコボロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜拳物語〜

【Nコード】

N2910BA

【作者名】

チヨボロン

【あらすじ】

俺の名前は空^{うつほ}、魔法の世界に転生というよくわからないことをされた、でも、後悔はしていない
ある師はこう言った「空、知っているか？拳士っていうのはな力だけではダメだ、心もいるんだ、例えばいじめられている人がいる、助けるために何をすべきだ？力だけではただの暴力だろ？心だけでは助けられない、じゃあどうすればいい？そうだ、（力と心）この二つがあれば助けられるんだよ」
力と心・・・俺は決意したこの二つでこの世界を生きていこうと

俺はここにきて第2の人生を歩もうとしていた

プロローグ1（前書き）

この小説は中学生が書く小説です十分におきよつけください

プロローグ1

？「あなたは死にました」

真剣な顔つきのやつに

突然言われた事がこれだった

俺はそういや事故にあったんだっただな・・・

（事故前）

後輩1「白鳥先輩さようなら」

後輩に声をかけられた

？「じゃあな」

俺は普通の高校生白鳥空

しらとり うつほ

住んでるところは滋賀県だ、地味って言うなよ？結構いいんだぞ

俺は、特徴もなく、趣味もない、

しかし、特技があった、それは少林寺拳法だった

これだけは絶対にゆずれなかったなぜなら、全国5位だぞ？

すごいったららない

そして、将来の夢は少林寺の師範代になること

少林寺を習ったのは幼稚園からだ、きっかけはラ○ウ、ケ○シ○ウに憧れたからだ

だってあれだぞ、指二本で倒すんだぞ、今考えたら恥ずかしいきっかけなんだが・・・

しかし恥ずかしいきっかけだが俺は今喧嘩をしたら普通の高校生なら5本で倒せる
すごいだろ？

まあみぞうちを突けばいいだけなんだけど
自己自慢をここまでにして

空「さて帰るか」

俺はいつも一人だ、なぜなら帰る、行くはみんなとは逆の方向だからだ

そして見慣れた景色をみながら帰る
一人で寂しいだって？そりゃ寂しいさ
でも、

空「やっぱここから見る景色はいいな・・・」

その景色だけで俺は元気づけられた

それは、山にある高台から見える

琵琶湖だ、春は桜とセットで、夏はひまわりとセット、秋はもみじ、
冬は雪だ、

四季折々っていいよな

しかし、その景色が最後だとも知らずに・・・

空「よし、そろそろ帰るか」

そういつて俺は走って家に向かった
山の交差点で信号が点滅していた

空「まにあえ!!」

そういつて俺は全力で走った
右からトラックが来ているのもわからず・・・
そして

ドン!!

鈍い音を鳴らして俺は・・・

（今）

？「あなたは死にました」

はじめは冗談だと思った

しかし、前にいる人は真剣そうだった
信じられなかった、てか信じなくなかった

俺だってまだ生きていたかった夢を叶えたかった・・・
俺の人生はこれで終わりなんだな・・・

？「殺したのはお茶です」

空「・・・・・・・・・・はあ？」

はあ？

何を言っているんだこの人は
殺したのはお茶？お茶？

空「まで、今なんて言った？」

？「だからお茶です」

空「ごめん、俺はその耳が悪いのかな？もういつかい」

そう言ってもう一度聞いてみた

「だからお茶です、正式に言えば午後の紅茶ミルクティーです」

うん、午後ティー？

俺は飲料水に殺されたのか
そうかそうか・・・

空「嘘付け！午後ティーに負けるほど俺の体は弱くないは！」

？「でも、事実なんです、私がああなたの生命のロウソクに午後の紅茶ミルクティーをこぼしたからあなたは死んだんです」

まて、今なんて言った？

生命のロウソク？なんだそれは？

わかったぞ、俺は夢をみているんだ！これで万事解決！

？「夢じゃありませんよ」

空「ああそうか・・・ってまて、今心読んだだろ、プライプシーの損害だぞ」

？「プライバシーです」

空「そんなことはどうでもいいから、それでなんだ・・・生命のロウソクって？」

？「生命のロウソクとは、ロウソクをしっていますね？」

空「お前は俺を馬鹿にしているのか？」

？「すみません、ロウソクはロウがある限り火が付きますよね？」

空「うんうん」

頷いた

まあ、そりゃそうだな

ロウがないロウソクは燃えないわな

？「人間は寿命っていうのがありますよね？ロウソクはロウという寿命があります、それは人間に置き換えただけです」

空「ああ、だいたいわかった」

なんだろう最後絶対投げたよな？

空「で、あんたはその生命のロウソクについてる火を午後ティーで消したと」

？「はい☆」

なんだろう、絶対馬鹿にしたよなこいつ、殴ってもいいのかな？

空「で、俺は地獄か天国かどっちなんだ？」

？「アハハ、あなはは気が早い人ですね」

空「からかってんのか？」

？「褒めているんです（笑）」

ムカツ

なんかいらつく

そう思っている

ルシュ「そういえば名前を言っていないませんでした、私はルシュです、ここで神をやっています」

空「・・・はあ？」

なんて今言った今神っていったよな？ you ゴット？

ルシュ「YES！」

空「はああああああああああああああああ！！！」

なんだろう・・・

今日は驚いてばかりだ

空「嘘つくな！」

ルシェ「嘘です」

空「俺の驚きを返せええええええ！！！」

ルシェ「本当です（笑）」

空「どっちだよ！」

ルシェ「本当ですよ、で、いきなりなんですけど、あなたに二回目の人生を与えようとおもいます」

もう驚かないぞ、神やら、死んだやらで・・・

ルシェ「あら、残念」

空「あんた、絶対遊んでるだろ・・・」

ルシェ「YES☆」

もういいや、修学旅行で楽しみにしているガキみたいなテンションやめよ

あきらめよう、話を聞いている真面目君になろう

ルシェ「それですね、あなたに魔法の世界にいつてもらいます」

それはいきなりの宣言？だった

プロローグ2（前書き）

く前回のあらすじく
簡単にいえば

・俺は死んだ

・神がいた・・・

・新しい人生を歩ませてくれそうです

まあ、こんなところかな

では「魔法少女リリカルなのはく一人の拳士の物語く」どうぞ！

プロローグ2

空「魔法の世界？まてまて、冗談だろ？」

ルシェ「冗談ではありません、私はめずらしく、とてもめ！ず！ら！しく！罪を認めて変わりに何かしてやろうと思っているのに・・・」

空「自分でいって悲しくないのか？」

ルシェ「私も今気づいたは・・・」

自分で言って悲しいのかよ

まあいいや、俺には関係ないも〜ん♪
あっ

空「そういや、魔法の世界だろ？そんなところで俺は何をしたらいいんだ？」

ルシェ「そうですね、第二の人生だからなにもいいませんよ、あなたの自由に暮らしてください」

いよっしやあああ！！！！

自由だ！これで俺は学校にいかなくてもいいという生活ができる！

ルシェ「学校にいかなくてもいいですが、友達できない、悲しい悲しい悲しい悲しい（endless）少年になりますよ」

空「そんなにいうなよ！悲しいやんけ！」

ルシェ「やっぱりいじりがいがある☆」

うざいな☆

でも、どうしようか魔法の世界だろ？

まて、今考えてみる

・魔法の世界へドーン

・家がない⇨野宿

・金がない⇨犯罪？

・そして捕まる⇨終わり

おわるじゃねーか！

ルシェ「それなら心配ないは、お金は私が保証してあげるから」

神様！！！！！

マジ天使！！！！

ああ某あの死んだ世界作品の意味で言ったわけではないよ

ルシェ「それとあなたには7つだけ願いを叶えてあげる」

空「それってドラg「いわせない！」・・・」

なんか言おうとした瞬間言われたし・・・

空「まあいいや、7つだよな？」

ルシェ「そうだよー」

考えろ俺！

7つだろ？結構多いな

とりあえず金は保証されてるだろ？

欲しいものだろ？

あつ、まず夢を叶えたいから

空「一つめは、俺にすべての拳法の技を使えるようにしてくれ」

ルシェ「そんなんでいいの？」

空「いいだろ？どうせ魔法の世界つっても俺には多分関係ないし」

ルシェ「よし運をとてもよくしよう」

神様！！！！！

マジ天S・・・

空「まで、やっぱりいい」

ルシェ「あなたに否定権はない！」

空「なんだと！あれだろ！運良くして魔法に出会わそうとしているんだろ！わかっているんだぞ」

ルシェ「あ！その手があったかならもつとあげておこう」

空「ああorz」

しまった鎌をかけられたただだったのか・・・
もうやけくそだ！

空「2つめは、身体能力をよくしてくれ、まあ、ケンシロウくらい？見た目は変わらないままでお願い3つめは、魔法を無効にする両手をくれ4つ目はそらを飛べるようにしてくれ」

ルシェ「もうチートだね（笑）」

空「自分で言ってる可哀想な子に見てえ来た・・・」

ルシェ「もうかわいそうだし☆」

うわあああ！！！！

目の前にいる神様に可哀想って言われた！
なんか敗北感があるんですけど！！

空「そういや願い事ってここで、全部叶えなきゃいけないの？」

ルシェ「お！びっくりだね、欲張りさんだと思ったた（笑）」

空「なんかひどい言われようだな」

ルシェ「むこういっても叶えてあげられるよ、残り3つどうする？」

空「うーん」

どうしようか、はっきり言って今思いつかないし・・・
そうだ！むこうで叶えてもらおう！

空「じゃあむこうで叶えてくれ！」

ルシエ「神様にそうやってたのむんだ（ニヤニヤ）」

空「叶えてくれ「へ」」叶えてください「ふん」叶えてください（土下座）」

ルシエ「よしわかった「最低だな」なんかいった？」

空「いえ何も（汗）」

女って怖いね、男ってこんなに弱いのも初めて知ったよ・・・

ルシエ「じゃあ魔法の世界にいつてらっしゃい」

そういつて目の前にドアが現れた！

何！魔法？怖！いきなりあらわれるとかこわ！

空「いろいろありがとうな」

ルシエ「いえいえ別にれいそされることなんか（ニヤニヤ）」

そう言つてドアに向かって歩いた

ここは、もうお別れか早いな、

空「じゃあ行つてきます」

そいつてドアを開けようとしたとき

空「えっ」

地面がないなぜ？

ルシェ「では逝ってらっしゃい」

空「ちょWおまW、ぎゃあああああ……」

そいつは俺は落ちていった

もういやだ、あの神様最低だな……

第2の人生の初めての友達ができました（前書き）

〳〵前回のあらすじ〳〵

- ・ 願い事を叶えてもらった
- ・ とりあえず神に土下座した
- ・ 落ちた・・・

では「魔法少女リリカルなのは〳〵一人の拳士の物語〳〵」どうぞ！

第2の人生の初めての友達ができました

俺は今空を飛んでいる・・・
違う落ちてる

空「ぎゃあああああああ~~~~~!!」

ああ、落ちてます
なんでドアがあるのに落とし穴しかけるんだよ!
あの神は最低だよ!!

空「ちょwまじでやばい、どうしたらいいんだああああ~~~~~!!」

やばい、落ちたら確実に死ぬぞw
死んだらもともこない、第2の人生を歩む前に死ぬぞw
あつ

空「そうだ、俺飛べんじゃん、でも、どうやって飛べばいい・・・」

しまった!!

神に聞いとけばよかった~~~~
神様〜助けてください~~~~

ルシエ（しかたない、助けてあげよう☆）

その声は神様!

ルシエ（飛び方は簡単だよ♪飛んでるイメージをすればいいだけ、

それとあなたにデバイスをあげるね、私があげるデバイスはちよっと特殊だから、じゃあね☆)

ありがとう神様！さっきは最低っていつてわりい飛んでるイメージか・・・

空「おっ！飛べたぞ！浮いてる！！おおっっ」

ほんとに飛べたぞびっくりだな！
いやまじで人が飛んだんだぞ！

？『感心している場合じゃないですよ！』

空「えっ？」

えっ、今の何、空耳かな？

空耳であってほしいですけど(笑)

？『はじめまして、わたしはマスターのデバイスです』

と、首にあるネックレス・・・
ネックレスがしゃべった！！

空「しゃべった！！！！めっちゃ怖い！！！！」

？『リアクションありがとうございます、その前に、あなたがマスターでいいんですね？』

空「そうなのか？知らないぞ、俺落ちてきてまだ一分も経ってないし・・・」

？『それなら、私から願います、私のマスターになってください』

なんだ？俺ネックレスに頼まれてるぞ・・・

どうすればいいんだ？

とりあえずなってもらうことにしよう

一人でいるよりはましだ

空「わかった、俺がそのマスターになる」

？『ありがとうございます、私の名前を決めてください』

名前？こいつ機械なのか？普通にしゃべっているようにしか・・・

わかった！普通に喋るとてもちいさな機械ネックレスだ！自分のも

のだしとりあえず名前か・・・

そうだ、俺の師匠の名前でもつけよう

空「じゃあ君の名前は、へはやぶさ<gtこれでもいい？」

はやぶさ『ありがとうございます』

空「ん、そりゃどうも、それより早く地上に降りるか」

はやぶさ『そうですね』

そういつて俺は空から公園におりた・・・

しかしそれが間違いであった・・・

（地上）

少女「・・・・・・・・・・」

えっと、どうしようなんか泣いててなぐさめようとしたら「飛んでる！」って目で少女がみてるんですが・・・
なんで飛んでるってか？地上に着く前に無意識にそっちに行ってしまったんだよ！！

・
なんか、俺の秘密をひとつばらしたようでとてもいやなんだけど・

少女「どうしてそらとべるの？」

空「それはな、俺はいい子だからだよ☆」

はつきり言おう無意識にでた言葉がこれだ
自分で言ってとても恥ずかしい・・・／／／

少女「私もいい子になったら飛べる？」

空「ああ、いい子にしてたらね」

何喋っとなじゃ俺の口！！！！

無意識に言っただけの夢を壊すような発言はやめろ！！

空「そういや、君の名前聞いてないね、名前は？」

なのは「私？高町なのは5歳！」

空「俺は白鳥空歳は・・・」

まて、俺何歳だ？

ルシェ（あなたは、15歳よ）

神様マジ天使だは、ありがとう

空「歳は15だと、下の名前で読んでくれ白鳥はいいにくいだろ？」

なのは「わかった、私も下の名前でよんでね」

空「ああ、わかった」

よかった、なんとか名前を聞いてさっきの話はなかったことに・・・

なのは「私もいい子にしてたら空を飛べるようになるかな・・・」

なんかつぶやいてるよ！

俺絶対悪いことしたよな、罪悪感MAXなんだが・・・

まあ、しょうがないいずれ飛べるさ！

空「そっそういや、さっきなんで泣いてたんだい？」

なのは「えっ？」

あれ？俺まずいこと聞いてしまったか？

なのは「実はね・・・」

そしてなのはは、俺に話してくれた

なのはの父さんが大怪我をして家にいないこと

なのはは、家に帰っても誰もいないこと

一人ぼっちだったからこの公園にきたこと全部聞いた

びっくりした初対面の俺に話してくれたんだもん

しかし、はっきりいって話の内容が重いでも、俺は話をとめなかった
ここで俺はこう思ったんだろう

〈助けたい〉

その言葉で俺の行動は、ひとつしかないだろう

空「なのはは、我慢をしているんだろ？」

なのは「えっ……」

そういつて俺はなのはを抱きしめた

空「お前は一人でいなければならい、だから我慢をしているんだろう？」

なのは「うん……わたしが我慢しないといけない」

空「でも、もう我慢しなくていいぞ、友達ができたんだ、もう一人じゃない」

なのは「友達……」

なのはは、そう呟いた

空「そう……友達、知ってるかい？友達はね……」

そいつは俺は師匠に言われたことを言った

空「友達はこの世で一番大事な宝物なんだよ」

そう、俺はこの言葉は俺が一人ぼっちだった時に言われた言葉だ
幼稚園でも俺は孤立していた

そのとき俺は少林寺を習い始めて師匠に言われた言葉だ

空「だから、俺はなのはの友達になってあげる、大事なものにだから、我慢をしなくていいよ・・・」

なのは「いいの・・・？」

空「ああ、友達だからな」

そしてなのはは、俺の胸で泣いた

しょうがないさ、こんな小さな子どもが一人ぼっちだったんだから・・・

俺もこんなときがあったな・・・

そして俺は一人助けることができた・・・

主人公設定（前書き）

主人公のプロフィールです

主人公設定

名前 しらとり
白鳥 そら
空

性別

男
♂

年齢

15歳

能力

力 S S とても強いです

魔力 ありません

俊敏 S 新幹線×3

知能 E 高校のテスト赤点くらい

防御 S 硬いしか言えない・・・

レアスキル

・魔法を打ち消す両手

どんな魔法もこの両手があればちよちよいのちよい！

・浮空術

空を飛べます

特技

拳法なら全てできる
少林寺、空手、柔道、太極拳・・・・などなど

趣味

・体を動かすこと

・寝ること

好きなもの

・家族

・自由時間

・師匠

嫌いなもの

・自由時間を潰す人

・眠気を妨げる人

所持デバイス

名前

はやぶさ

？ 服 ？ 武器

性格

空といっしょで自由

過去話・・・(前書き)

空の過去の話です

過去話・・・

俺はずっと一人だった

少林寺に入って師匠に会うまでは・・・

く過去幼稚園6歳く

空「うるさい!!」

少年1「いたっ!」

俺は他人を殴ってばかりだった

たたとえばしょうもない理由でも俺は殴った
ムカつく

ただそれだけだった

先生1「白鳥くんやめなさい」

空「うっさいな! 黙れや!」

そいつって俺は目の前にあった積み木を投げた

がん!

目に直撃したのだ

先生は屈み込んだ、俺は悪いと思わなかった
自分のせいではないこいつが悪い

今考えれば自分勝手な俺だな

先生達「大丈夫ですか!？」

そういつて駆け寄っていった

先生たちは救急車をよんだ

そして運び出された、

それでも俺は認めなかった・・・

自分が悪いということを

先生2「だれがこんなことしたんですか？」

「・・・・・・・・」

誰も喋らなかった

沈黙のなか一人の大人がいった

師匠「こいつがやりました」

そう、これが俺と師匠のあい

この時師匠は幼稚園にボランティアに来ていた

そして俺の頭を掴んでガシャガシャする

空「いてえな！」

殴ったかし

師匠「あまいな、俺を殴るにはもう少し時間があるぞ」

そういつて俺の手をキャッチ

びっくりだった、ボランティアの人が俺の手をとったのだから

空「はなせや！」

そういつて俺は強引に取ろうとしたが取れない
そして

空「おら!!」

そういつて俺は蹴ったが

師匠「あまいな」

そういつて足で受け流したのだ!

俺はその時単に守ったのだと思った
そして師匠は

パン!

と、俺の頬をビンタしたのだ
いたかったでも、

今の俺ならわかるこのビンタはやってはいけないことをした時にす
るものだからだ

昔の俺は単にビンタしただけだと思った
そして師匠はこう言った

師匠「お前は、ごめんなさいも言えないのか!」

なんで? って思った

俺は悪いことをしていない

あいつが言ったからこうなったんだろう?

そう言っているひまもなく

師匠「お前は人に怪我をさせたんだぞ！この重さがわかるか！」

空「あいつが悪いんだろう！俺を止めたりするからだろ！」

そう俺はいった

パアン！

そしてビンタをされた

師匠「俺が言っているのは！怪我の方だ！」

なんでだ？

なんでお前は悪い事ではなく

怪我なんだ？

師匠「俺は悪いことしただけでは怒らない！でも怪我をさせたことには怒る！お前は怪我をさせたことはとても重いこと！そして、心を傷つけたことだ！悪いことをしたらそれを償えばいいだが、怪我や心を傷つけることは治らないかもしれないんだぞ！」

俺は何を言っているかわからなかった

でもこれだけはわかった、傷つけてはいけない

そう、わかりやすく教えてくれた

そのときだ俺はこの人を尊敬した、この人みたいになろう
今考えれば俺はちよつとしたことで心が動きやすいと思った

そして俺は少林寺を始めた時に師匠に出会った

14の中学2年になるまでおれはいろいろと教えてもらった
そして15の春師匠は死んだ

テロで、師匠は自衛隊に入っていた
人を助けようとして銃弾を受けたらしい
悲しかった、尊敬している人が死ぬのは

でも、嬉しかったさいごまで人を守って死んだのだから
師匠は自分の信念を通したのだから

そして俺は死んだ師匠の妻から封筒をもらった
そこにかかれていたのは

そらへ

俺は多分このテロの防衛で死ぬと思う

だから、この紙に書いておくいわゆる遺書ってやつだ

お前は初めてできた弟子的な存在だった師匠って読んでくれたのを
今でも覚えている

その弟子がここまでできると思っただけじゃなかった全国まで行くとは
俺はお前にいろいろと教えたよな？

分かれても大丈夫だ

お前には俺にはない翼がある

どこまでも高く羽ばたく翼がある

お前はもっと上を目指せる俺を越せるだろう
もう書く時間がないからこれだけ

力だけではただの暴力 心だけでは助けられない (力と心) この
二つがあればいい

俺は泣いたさ感動できない文章でも俺は嬉しいと思った
俺のためにこの文を書いてくれたんだから

そして俺はこう誓った
力と心で俺は人を救う師匠みたいになると

緊急 難しいので・・・(前書き)

やっぱり私はオリジナルので書いていききたいと思います

緊急 難しいので・・・

こんにちは、見ていただいてありがとうございます（。V。）

実はこの小説を書いていて俺は難しいと思いました

なぜならリリカルなのはを見ても、オリジナルの俺の空は当然登場しません

書こうとしても原作の話にいかずこれは完全に話がおかしくなるんじゃないね？って思い始めました

この後の予定では

- ・ 空がなのはの兄に道場に連れて行かれて信念を治す
- ・ 家がないので野宿
- ・ 学校にいかず人助けをする
- ・ この街について図書館に行って調べるときにはやてに合う
- ・ はやての家に住み着く
- ・ 闇の書起動
- ・ シグナムたちに強力
- ・ 闇の書と戦う
- ・ 闇の書暴走を止めるが失敗命を絶って封印
- ・ 終わり？

と、命を絶つところがよくわかりませんがこんな感じで予定をしていました

しかし、書こうと思うとなかなかできませんでしたので

緊急でこの小説を止めさせてもらいます

ご迷惑をお掛けします

でも、オリジナルの小説を書きますので

是非見てください
では（＊　へー　）
ノバイバイ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2910ba/>

魔法少女リリカルなのは～拳物語～

2012年1月10日14時55分発行